

## 問題意識と先見性、そして恕

歯学部長 岡本 莫

御卒業おめでとう。心からお祝い申し上げます。

6年間の大学生活も今日で終了ということになりましたが、振り返ってみて諸君はどのような感慨を持っているのでしょうか。今は卒業証書を手にしたばかりで、開放感と将来への期待で喜びに浸っていることと思いますが、目前に迫った国家試験のため、そんな余裕もなく、回顧にはもう少し時間が必要かも知れません。

学生時代を顧みした場合、つぎの3つの答えがあるようです。1つは、十分勉強もした、エンジョイもしたという満足型、もう1つは、もっと……すれば良かったという懐古型、残りのもう1つは、もっと……ができたはずという悔悟型。諸君たちはそのいずれに属するのでしょうか。いずれにしても諸君は自分で自由に料理できる余暇に満ち、モラトリアムが許されていた大学時代へは、もう後戻りすることはできません。しかし、大学というところは、1年過ごすには長いですが、6年間過ごすには中途半端なところだそうですし、もともと大学はものを考える基礎について教えてくれるだけで、生活の仕方まで教えてくれるところではありません。しょせん、大学は社会に向かっての出撃基地であります。したがって、諸君たちはほんの少しかぼかがついたにしても、今ようやくスタートラインに勢ぞろいしたところだといっても決して過言ではありません。これからが勝負の始まりです。

今日、歯学のめざましい発展に伴い医療内

容が多様化、高度化してきた結果、歯科医療に2極分化が生じてきました。それは総合歯科医の充実と認定医制度の発足による専門化であります。前者はすでに3年前より文部省が一般歯科診療のレベルアップのため卒直後2年間歯科研修医を設けており、やがては法制化を図ろうとするものであり、後者は医療水準の向上と維持および地域医療体制の確立のため日本歯科医学会の各学会が独自に制度化したものであります。諸君たちが、このいずれを選ぶかは自由ですが、もう学生時代のようなレールはありません。脱線したらおしまいということにならないように、これからは常に問題意識と先見性をもって、自分でレールを敷いて、その上を急がず確実に運転して行かねばなりません。

生涯研修が義務づけられ、常識となった今、歯科に関する知識と技術の向上習得はもちろんですが、それにも増して医師として大切なことは良い人間関係を得ることです。つい先日亡くなられた文化勲章受賞者井上靖著のベストセラー長編「孔子」の中に、強く印象づけられた一文がありました。——子貢問うて曰く、一言にして以て終身、これを行うべきものありや。子曰く、それ恕か。己れの欲せざる所を人に施すこと勿かれ。——医は仁術なりは正にこれと同義語で、まずは人の痛みがわかる人間になるように常に自分の器を大きくすることを心がけるのが根本でありましょう。

諸君の御健闘と御多幸を祈ってやみません。